

Shibaura Machine

View the Future with You

株主の皆様へ

第102期報告書

(2024年4月1日から2025年3月31日まで)

芝浦機械株式会社

証券コード：6104

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素よりご高配を賜り、心よりお礼申し上げます。

ここに、株主の皆様へ（第102期報告書）をお届けするにあたりまして、ひと言ごあいさつ申し上げます。

<当期の状況と業績>

当連結会計年度における世界経済は、回復基調で推移しましたが、中国の景気低迷の長期化、ロシアによるウクライナ侵攻や中東情勢の緊迫化、米国トランプ政権による保護主義政策の影響など先行き不透明な状況が継続、後半にかけては景気の下押し圧力が強まりました。

当社グループを取り巻く経済環境は、インド経済が堅調に成長している一方で、EV市場の減速や中国の景気低迷、部材・エネルギー価格の高止まり、さらに米国大統領選挙の影響など厳しい状況で推移いたしました。

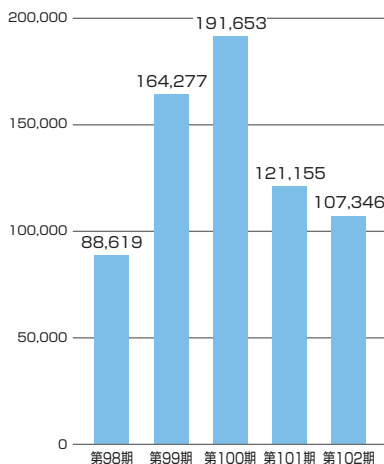


取締役社長
坂元 繁友

<業績ハイライト>

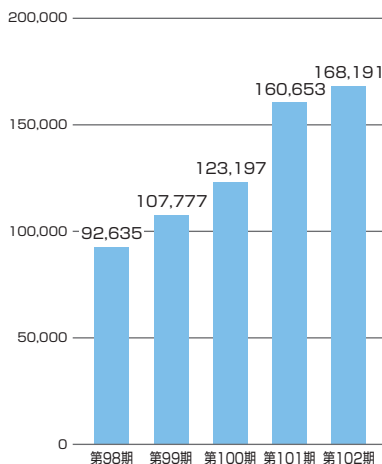
■受注高

(単位：百万円)



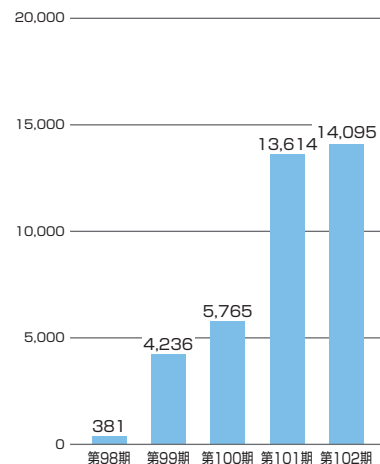
■売上高

(単位：百万円)



■営業利益

(単位：百万円)

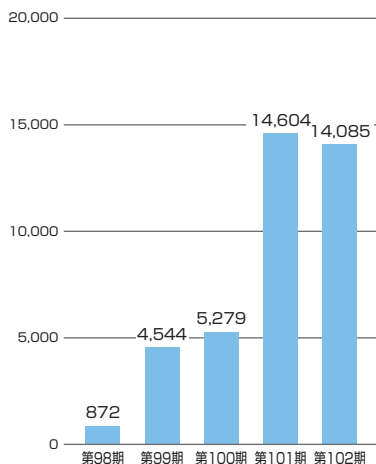


このような経済環境のもとで、当社グループは中期経営計画「中計2026」（2024年度～2026年度）で掲げている事業ポートフォリオの組み替え、顧客の生産性向上に寄与するシステムエンジニアリング装置販売・直販への軸足シフト、事業ポートフォリオ組み替えにリンクした人材戦略、ESG経営の推進等の基本方針に基づき、脱炭素社会、EV、再生可能エネルギー、労働生産性向上などに関連した商品の開発と提供、DX戦略の推進などの諸施策を遂行しております。

当連結会計年度の前連結会計年度比における受注高は射出成形機が国内、中国、インドにおいて増加、超精密加工機が国内、中国において増加したものの、押出成形機の中国におけるリチウムイオン電池向けセパレータフィルム製造装置の減少により、1,073億4千6百万円（前連結会計年度比11.4%減、海外比率50.6%）となりました。売上高は工作機械が国内、中国、北米で減少しましたが、中国におけるリチウムイオン電池向けセパレータフィルム製造装置の増加により、1,681億9千1百万円（前連結会計年度比4.7%増、海外比率77.1%）となりました。損益については、規模増加などによる増益効果により、営業利益は140億9千5百万円（前連結会計年度比3.5%増）、経常利益は為替変動の影響等により、140億8千5百万円（前連結会計年度比3.6%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は前連結会計年度に計上した固定資産売却益などの反動減により、125億9千7百万円（前連結会計年度比29.7%減）となりました。

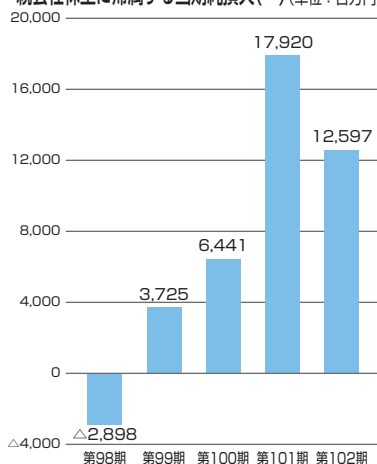
■ 経常利益

（単位：百万円）



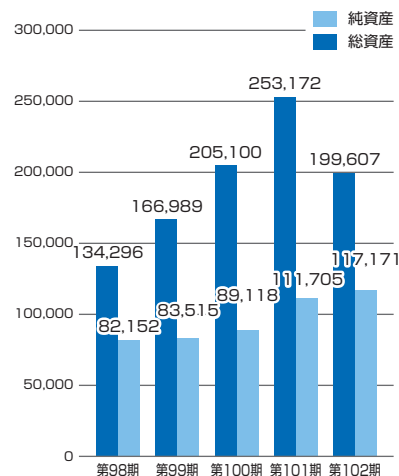
■ 親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失(△)

（単位：百万円）



■ 総資産／純資産

（単位：百万円）



＜次期の取組み＞

当社グループは、次の時代へ向かって2026年度を最終年度とする中期経営計画「中計2026」を進めております。定量目標を設定し、その達成に向け、事業ポートフォリオの変革を中心とした各種施策を遂行しております。足元の世界経済は、米国トランプ政権による関税政策の影響により、設備投資にも慎重な姿勢が見られるなど、一層の不透明感が漂う経済環境ではありますが、引き続き諸施策に取り組んでまいります。

射出成形機は、市場拡大が見込まれるインドにおいて、増産によるインド国内の需要を取り込むとともに、中東・アフリカ・欧米・東南アジア等への輸出に注力、欧州においては、ドイツに販売・サービス会社を設立し、容器・医療のドメインを中心に拡販、中国においては、OEM生産への移行と原価低減により販売の拡大と収益性の向上を図ります。

押出成形機は、特に車載用電池として、リチウムイオン電池から将来置き換わるとされる次世代電池に対応する技術・製品の開発に引き続き注力してまいります。

超精密加工機は、新たな市場開拓を進め、欧米において自動車・光通信・医療・プレス金型のドメインをターゲットに需要を取り込んでまいります。

ダイカストマシンは、ギガキャストに対応し、引き続き低圧鑄造技術の開発及び超大型ダイカストマシン6,000～12,000t級の複数ラインアップ化を進めてまいります。

工作機械は、需要の高まりが想定される建設機械・マイニングなどのエネルギー関連や航空宇宙関連などのドメインに注力してまいります。

サービス事業の強化、生産年齢人口の減少を背景とした顧客からの生産工程の自動化ニーズに対応するためのシステムエンジニアリング装置販売等により、利益率の改善を図ってまいります。

今後製造業が直面する「メガトレンド」に卓越した技術力で応え、社会的課題の解決と企業価値向上の両立を目指すため策定した「長期ビジョン2030」をもとに、エネルギー関連と生産性の向上を軸として事業ポートフォリオを設定することで、目指すポートフォリオに向けた技術開発を推進し、常に顧客に寄り添いニーズに合った商品を創出、提供し続けてまいります。

生産効率と生産能力向上に向けた沼津工場の再編、新装置開発と販売促進に対応する押出成形機テクニカルセンターの建設、環境対応に向けた再生可能エネルギー等への投資、全社基幹システム（ERP）の更新、DX戦略の推進に加え、M&A／アライアンスなどを活用し、当社グループの企業価値向上に向けた投資を推進してまいります。

引き続き、法令遵守、ISO9001、14001をベースとした品質・環境管理の徹底、事業ポートフォリオ変革と連携した人材戦略、社会貢献への積極的な取り組みなど、ESG経営の推進により持続可能な社会の実現と企業価値向上を目指してまいります。

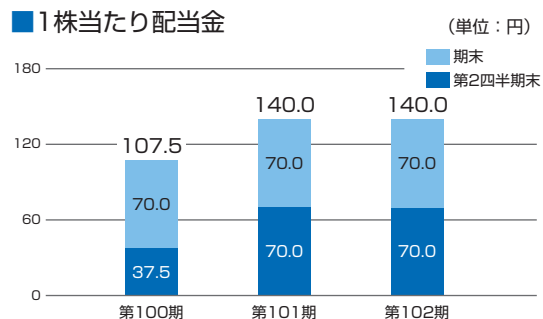
< 配当について >

当社は、収益性の向上に向けて経営体質の強化を図りながら、安定配当を維持し、業績に応じた利益配分をしていくことを基本方針としております。利益剰余金につきましては、企業の継続的发展のため将来の事業展開等を戦略的に判断し、人的資本の強化や生産設備、技術開発、海外展開等に有効に投資していくとともに、継続して株主の皆様への適正な利益還元を実施してまいります。

当期につきましては、第2四半期末配当は1株当たり70.0円、期末配当は1株当たり70.0円とさせていただきました。この結果、年間で1株当たり140.0円とさせていただきました。

株主の皆様におかれましては、何卒いっそうのご指導、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

2025年6月



事業別の概況

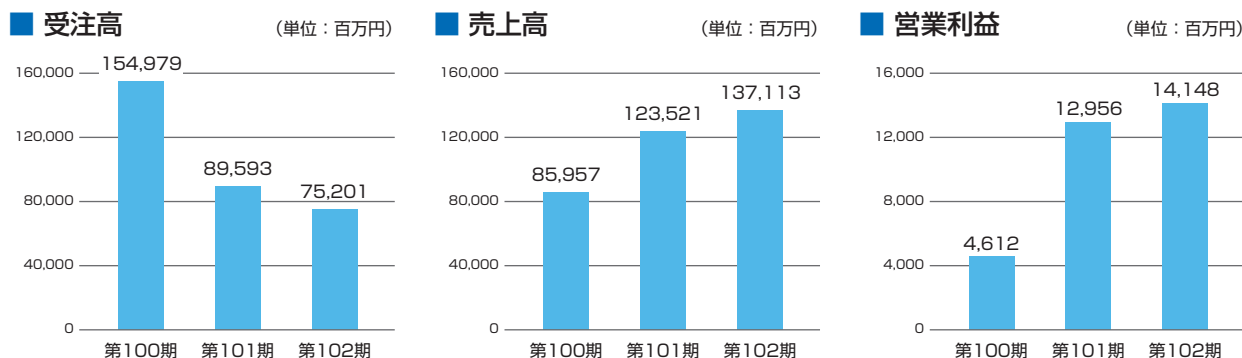
成形機事業【射出成形機、ダイカストマシン、押出成形機など】

射出成形機においては、販売は国内、中国、インドで増加したものの、北米、東南アジアで減少いたしました。受注は国内における自動車向け、中国、インドで増加いたしました。

ダイカストマシンにおいては、自動車向けが、販売はインド、韓国で増加、受注は東南アジアで増加したものの、国内、中国、韓国で減少いたしました。

押出成形機においては、販売は中国におけるリチウムイオン電池向けセパレータフィルム製造装置が大幅に増加、受注は国内における光学向けが増加したものの、EV需要の伸びの鈍化などの影響により中国でリチウムイオン電池向けセパレータフィルム製造装置が大幅な減少となりました。

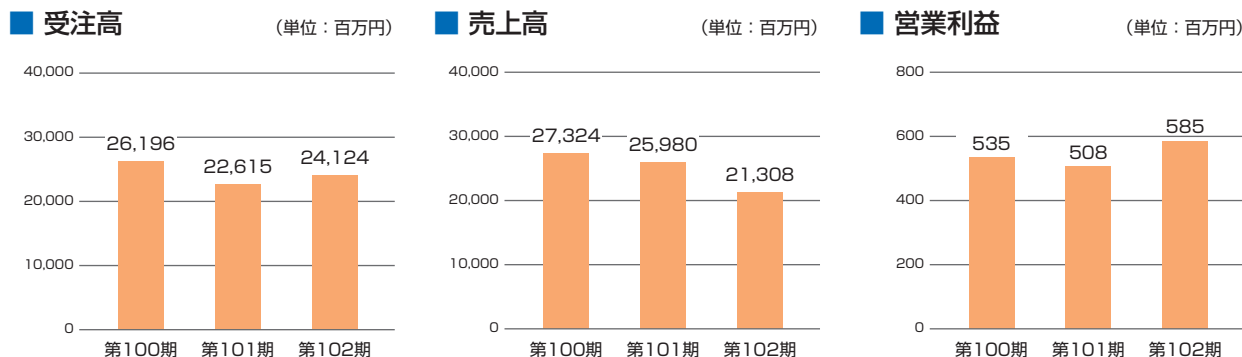
この結果、成形機事業全体の受注高は752億1百万円（前連結会計年度比16.1%減、海外比率59.3%）、売上高は1,371億1千3百万円（前連結会計年度比11.0%増、海外比率86.4%）、営業利益は141億4千8百万円（前連結会計年度比9.2%増）となりました。



工作機械事業【工作機械（大型機、門形機、横中ぐり盤、立旋盤など）、超精密加工機など】

工作機械においては、販売は国内、中国、北米で減少いたしました。受注は国内で増加したものの、北米、中国で減少いたしました。超精密加工機においては、販売は国内で増加したものの、中国において減少、受注は国内における光学レンズ向け、半導体製造装置向け、中国における車載レンズ向け、光通信関連向けが増加いたしました。

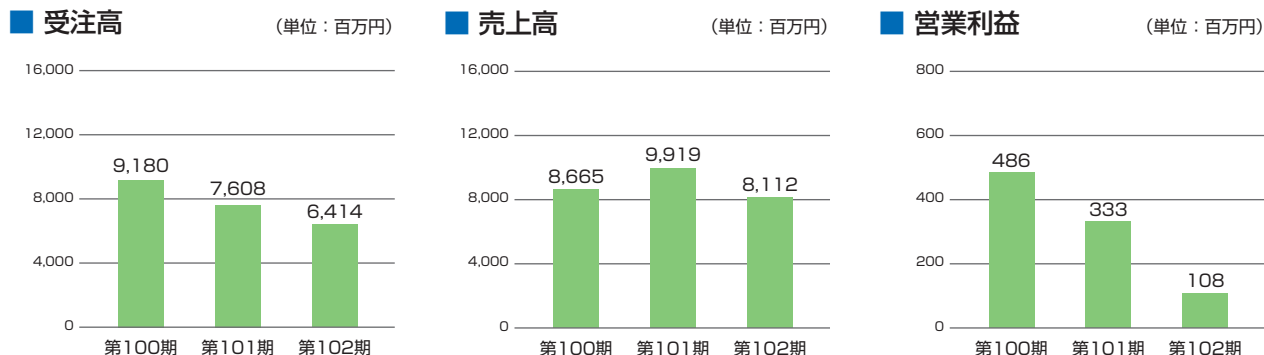
この結果、工作機械事業全体の受注高は241億2千4百万円（前連結会計年度比6.7%増、海外比率38.6%）、売上高は213億8百万円（前連結会計年度比18.0%減、海外比率49.9%）、営業利益は5億8千5百万円（前連結会計年度比15.1%増）となりました。



制御機械事業 [産業用ロボット、電子制御装置など]

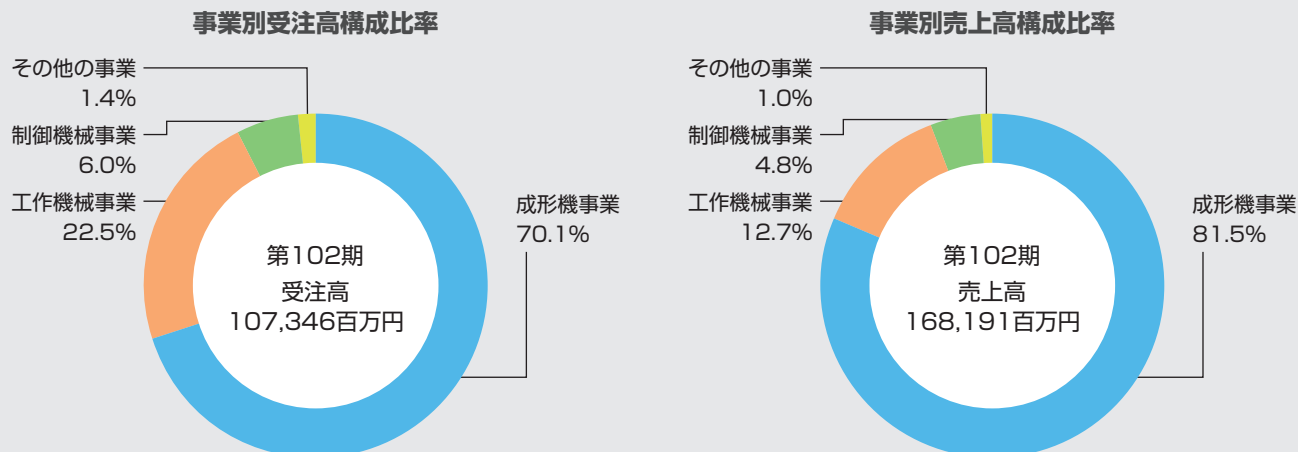
制御機械においては、販売と受注は国内における電子制御装置が減少いたしました。

この結果、制御機械事業全体の受注高は64億1千4百万円（前連結会計年度比15.7%減、海外比率6.3%）、売上高は81億1千2百万円（前連結会計年度比18.2%減、海外比率7.7%）、営業利益は1億8百万円（前連結会計年度比67.5%減）となりました。



その他の事業

その他の事業全体の受注高は16億6百万円（前連結会計年度比20.1%増、海外比率2.1%）、売上高は16億5千5百万円（前連結会計年度比34.4%増、海外比率1.6%）、営業損失は7億2千5百万円（前連結会計年度は営業損失2億2千3百万円）となりました。



■ 芝浦機械のギガキャストへの対応

◆ギガキャストとは

ギガキャストとは、自動車製造工程における新たな技術で、数十から数百点の部品を組み合わせてつくられている車体構造部品を、超大型ダイカストマシン（型締力6,000トン級以上）を用いて一体鋳造する手法です。複数の部品を一体鋳造することで部品点数や製造工程の削減、更なる軽量化や強度向上を可能にし、自動車の生産効率と環境性能の大幅な向上が期待されています。

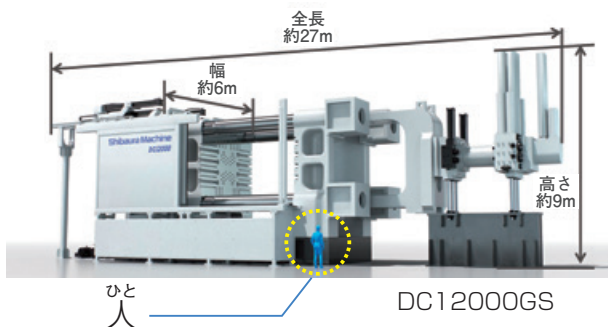


車体構造部品

◆ギガキャストに対応する【超大型ダイカストマシン】と【低圧鋳造技術】

当社は、長年にわたるダイカストマシンの開発実績と技術力を活かし、超大型ダイカストマシンをラインアップ（型締力6,000～12,000トン級（既存ラインアップは135～4,000トン））に加えてまいります。並行して、ダイカストマシンの小型化による省スペース化・省エネルギー化・設備投資コスト低減などのメリットが期待される低圧鋳造技術の開発を進めています。

【超大型ダイカストマシン】



DC12000GS

世界最大級12,000トンの型締力を持つ超大型ダイカストマシンDC12000GS（2台）を2024年度下期に受注いたしました。

詳細につきましては、2025年4月16日に当社ホームページに掲載しております「世界最大級・型締力12,000トンの（新製品）超大型ダイカストマシンを受注（ギガキャストに対応）」をご覧ください。



<https://www.shibaura-machine.co.jp/jp/NEWS/product/20250416.html>

【低圧鋳造技術】

低圧鋳造技術とは

例えば、型締力3,500トン級のダイカストマシンで、型締力6,000トン級のダイカストマシンがつくる鋳造品を実現する技術です。

お客様の主なメリット： ◎省スペース化 ◎省エネルギー化 ◎設備投資コスト低減

■ 成形機におけるシステム販売の取り組み

成形機におけるシステム販売の取り組みの一環として、当社は2025年5月1日に株式会社ファンクショナル・フルイッドの全株式を取得し、子会社化しました。

株式会社ファンクショナル・フルイッドは、成形機の金型冷却水に発生する障害を除去する独自の金型二次冷却システムを持ち、長年にわたる実績とノウハウを保有しています。

本金型二次冷却システムは、世界中どこでも同じ水質の冷却水を提供することを可能にします。本金型二次冷却システムを当社の射出成形機やダイカストマシンなどの製品群と組み合わせることで、連続安定成形を実現し、お客様の生産性の向上に貢献します。当社は、安定成形を求める世界中のお客様に対する提案力をさらに強化し、グローバル市場での販売拡大を目指します。また、適正な水量・水温による効率的な冷却により消費電力・CO₂排出量の削減を実現しSDGs（持続可能な開発目標）への貢献も果たします。



射出成形機



システム販売



ダイカストマシン



金型二次冷却システム

株式会社ファンクショナル・フルイッド

■ 事業内容

- ・二次冷却システム・冷却水防錆媒体・防錆薬品等の製造・販売
- ・操業環境及び機械加工最適化のための各種機器の製造・販売
- ・冷却水システム等に関するテクニカルコンサルティング

生産性の向上に貢献

グローバル市場での販売拡大

SDGsへの貢献

詳細につきましては、2025年3月18日に当社ホームページに掲載しております「株式会社ファンクショナル・フルイッドの株式取得（子会社化）に関するお知らせ」をご覧ください。

<https://www.shibaura-machine.co.jp/documents/jp/ir/library/kohyo/2024/20250318.pdf>



■ 芝浦機械の「8つの技術プラットフォーム」のご紹介

芝浦機械は、技術力とその基盤となる技術者を何よりも大切にしてきました。加えて、「ないモノはつくる」という考えのもと、お客様に合わせて多種多様な製品を生み出してきたことにより、様々な分野の技術力を蓄えてきました。こうした過程で磨き上げてきた「8つの技術プラットフォーム」を基盤に、幅広い産業領域で先進の機械を開発・製造しています。

1 一歩進んだ精度を実現する 匠の加工・組立・ 測定技術	2 多様な用途分野に対応できる 加工機・成形機の 設計技術	3 インテグレーティブな カスタマイズ技術	4 機械性能を最大限に活かす 材料技術
5 機械群ごとに最適化された 制御・メカトロ・ IoT技術	6 高精度を支える 摺動と回転	7 対象材料の理解に基づく 金型起点の成形 加工技術	8 熱・光・真空を活用した ナノ加工技術

◆ 「8つの技術プラットフォーム」の活用例

次世代電池に必要な不可欠である、 混ぜる・塗る・貼り合わせる・組み立てる技術の結集

混 ぜる



二軸混練押出機

塗 る



高精度塗工装置

貼 り合わせる
組 み立てる



システムエンジニアリング

該当する8つの技術プラットフォーム

1 **2** **3** **4** **5** **6** **7** **8**

BEV (Battery Electric Vehicle) やスマートフォンに使われる二次電池は、性能と安全性向上のため現在主流の液系リチウムイオン電池から、半固体電池や全固体電池、燃料電池へ進化しようとしています。これら次世代電池における共通の技術キーワードは、電極材の混練と塗工の技術、各機能膜の積層技術となります。芝浦機械はこれまでに培った高度な押出成形技術と制御技術を組み合わせ、より高性能な次世代電池を高い生産性で生み出すことに貢献します。

連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	第102期 (2025年3月31日現在)	第101期 (2024年3月31日現在)	科 目	第102期 (2025年3月31日現在)	第101期 (2024年3月31日現在)
資 産 の 部			負 債 の 部		
流 動 資 産	151,150	203,059	流 動 負 債	71,472	130,329
現金及び預金	36,388	51,669	支払手形及び買掛金	15,003	31,016
受取手形、売掛金及び契約資産	27,381	30,354	短 期 借 入 金	10,135	11,030
有 価 証 券	18,000	—	リ ー ス 債 務	243	247
商品及び製品	35,790	69,097	未 払 法 人 税 等	2,895	4,134
仕 掛 品	26,461	33,283	未 払 費 用	2,101	3,310
原材料及び貯蔵品	40	42	契 約 負 債	36,353	75,070
その他の流動資産	7,160	18,662	賞 与 引 当 金	2,382	2,725
貸 倒 引 当 金	△ 72	△ 51	製品保証引当金	727	877
固 定 資 産	48,457	50,113	その他の流動負債	1,629	1,917
有 形 固 定 資 産	33,973	33,522	固 定 負 債	10,964	11,137
建物及び構築物	21,218	19,144	リ ー ス 債 務	503	526
機械装置及び運搬具	4,300	3,349	長 期 未 払 金	—	5
土 地	6,741	6,852	繰 延 税 金 負 債	3,194	3,574
リ ー ス 資 産	706	728	役員退職慰労引当金	26	27
建 設 仮 勘 定	221	2,566	退職給付に係る負債	6,826	6,610
その他の有形固定資産	785	881	資 産 除 去 債 務	413	393
無 形 固 定 資 産	1,150	1,219	負 債 合 計	82,436	141,466
の れ ん	378	463	純 資 産 の 部		
その他の無形固定資産	771	755	株 主 資 本	102,613	95,286
投資その他の資産	13,332	15,370	資 本 金	12,484	12,484
投資有価証券	11,754	13,752	資 本 剰 余 金	11,538	11,538
出 資 金	241	241	利 益 剰 余 金	82,222	79,140
長 期 貸 付 金	2	3	自 己 株 式	△ 3,631	△ 7,877
繰 延 税 金 資 産	557	584	その他の包括利益累計額	14,557	16,419
そ の 他 の 投 資	1,286	1,321	その他有価証券評価差額金	6,448	8,123
貸 倒 引 当 金	△ 510	△ 532	為替換算調整勘定	6,596	6,672
			退職給付に係る調整累計額	1,512	1,623
資 産 合 計	199,607	253,172	純 資 産 合 計	117,171	111,705
			負債・純資産合計	199,607	253,172

連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	第102期 (2024年4月 1 日から 2025年3月31日まで)	第101期 (2023年4月 1 日から 2024年3月31日まで)
売 上 高	168,191	160,653
売 上 原 価	114,643	110,024
売 上 総 利 益	53,547	50,628
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	39,452	37,014
営 業 利 益	14,095	13,614
営 業 外 収 益	1,010	1,845
営 業 外 費 用	1,020	855
経 常 利 益	14,085	14,604
特 別 利 益	4,051	10,920
特 別 損 失	232	204
税金等調整前当期純利益	17,904	25,321
法人税、住民税及び事業税	5,063	4,558
法 人 税 等 調 整 額	243	2,841
当 期 純 利 益	12,597	17,920
親 会 社 株 主 に 帰 属 す る 当 期 純 利 益	12,597	17,920

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	第102期 (2024年4月 1 日から 2025年3月31日まで)	第101期 (2023年4月 1 日から 2024年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,331	9,307
投資活動によるキャッシュ・フロー	910	△ 3,805
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 6,532	△ 6,703
現金及び現金同等物に係る換算差額	42	1,935
現金及び現金同等物の増減額	2,752	733
現金及び現金同等物の期首残高	51,588	50,855
現金及び現金同等物の期末残高	54,341	51,588

連結財務諸表のポイント

資 産

当連結会計年度末の資産は、前連結会計年度末に比べ535億6千4百万円減少し、1,996億7百万円となりました。減少の主な内訳は、建物及び構築物（純額）が20億7千3百万円増加したものの、商品及び製品が333億7百万円、受取手形、売掛金及び契約資産が29億7千3百万円減少したこと等によります。

負 債

負債は、前連結会計年度末に比べ590億3千万円減少し、824億3千6百万円となりました。減少の主な内訳は、契約負債が387億1千6百万円、支払手形及び買掛金が160億1千2百万円減少したこと等によります。

純資産

純資産は、前連結会計年度末に比べ54億6千5百万円増加し、1,171億7千1百万円となりました。増加の主な内訳は、親会社株主に帰属する当期純利益125億9千7百万円の計上があったこと等によります。

この結果、当連結会計年度末の自己資本比率は58.7%となりました。

キャッシュ・フロー計算書

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）の残高は、前連結会計年度末に比べ27億5千2百万円増加し、543億4千1百万円となりました。

なお、当連結会計年度における各活動によるキャッシュ・フローの状況は次のとおりです。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動による資金は、83億3千1百万円の増加になりました。これは主として、契約負債の減少による支出388億7百万円、仕入債務の減少による支出160億4千9百万円があったものの、棚卸資産の減少による収入401億3千2百万円、税金等調整前当期純利益の増加による収入179億4百万円等があったことによります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動による資金は、9億1千万円の増加になりました。これは主として、有形固定資産の取得による支出27億1千3百万円があったものの、有形固定資産の売却による収入42億7千4百万円等があったことによります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動による資金は、65億3千2百万円の減少になりました。これは主として、自己株式の取得による支出20億円、配当金の支払額33億4千5百万円等があったことによります。

財務諸表

貸借対照表 (単位：百万円)

科 目	第102期 (2025年3月31日現在)	第101期 (2024年3月31日現在)
資 産 の 部		
流 動 資 産	113,974	165,053
固 定 資 産	50,673	52,795
有 形 固 定 資 産	24,020	26,116
無 形 固 定 資 産	578	533
投 資 そ の 他 の 資 産	26,074	26,145
資 産 合 計	164,647	217,849
負 債 の 部		
流 動 負 債	61,410	119,385
固 定 負 債	10,096	10,129
負 債 合 計	71,507	129,515
純 資 産 の 部		
株 主 資 本	86,692	80,209
資 本 剰 余 金	12,484	12,484
資 本 利 益 剰 余 金	11,538	11,538
自 己 株 式	66,300	64,063
評 価 ・ 換 算 差 額 等	△ 3,631	△ 7,877
そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	6,448	8,123
純 資 産 合 計	93,140	88,333
負 債 ・ 純 資 産 合 計	164,647	217,849

損益計算書 (単位：百万円)

科 目	第102期 (2024年4月 1 日から 2025年3月31日まで)	第101期 (2023年4月 1 日から 2024年3月31日まで)
売 上 高	131,859	126,579
売 上 原 価	95,249	92,257
売 上 総 利 益	36,610	34,321
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	25,043	24,466
営 業 利 益	11,567	9,854
営 業 外 収 益	3,148	2,897
営 業 外 費 用	1,131	788
経 常 利 益	13,584	11,962
特 別 利 益	2,532	10,920
特 別 損 失	71	203
税 引 前 当 期 純 利 益	16,044	22,679
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	3,830	3,321
法 人 税 等 調 整 額	461	2,687
当 期 純 利 益	11,752	16,670

ホームページのご紹介

当社ではホームページによる情報開示を積極的に行っております。財務情報や最新ニュースをはじめとするIRサイト「投資家情報」も掲載しており、製品情報も含めて随時更新を行っております。

<https://www.shibaura-machine.co.jp>



<トップページ>



<投資家情報>

グローバルネットワーク (2025年3月31日現在)

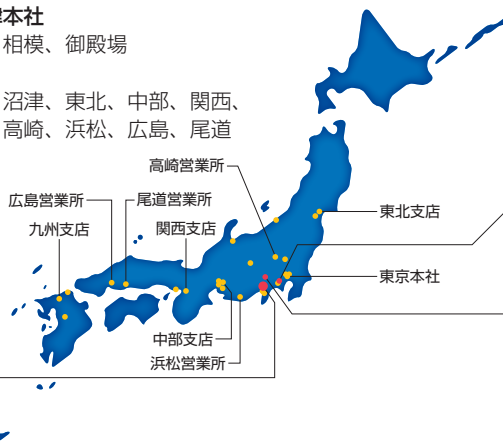


本社
製造拠点
販売・サービス拠点

● 東京本社、● 沼津本社
● 工場 沼津、相模、御殿場
● 27拠点
(主な拠点) 東京、沼津、東北、中部、関西、九州、高崎、浜松、広島、尾道



沼津本社
沼津工場



相模工場



御殿場工場



製造拠点
販売・サービス拠点

● 工場 中国、インド、タイ
● 43拠点
東アジア 9拠点
東南アジア 27拠点 (インド21拠点含む)
北米・中南米 6拠点
欧州 1拠点

中国工場
SHIBAURA MACHINE
(SHANGHAI) CO., LTD.



インド工場
SHIBAURA MACHINE
INDIA PRIVATE LIMITED



タイ工場
SHIBAURA MACHINE MANUFACTURING
(THAILAND) CO., LTD.



会社の概況／株式の状況 (2025年3月31日現在)

会社の概況

- (1) 所在地
東京都千代田区内幸町二丁目2番2号
- (2) 創 業
1938年（昭和13年）12月
- (3) 設 立
1949年（昭和24年）3月
- (4) 資本金
124億8千4百万円
- (5) 従業員数
連結：2,982名（前期末比75名減）
単独：1,560名（前期末比103名減）
- (6) 役 員（2025年6月23日現在）
- | | |
|--------------|---------|
| 代表取締役社長 | |
| 社長執行役員 | 坂 元 繁 友 |
| 最高経営責任者 | |
| 最高執行責任者 | |
| 代表取締役専務執行役員 | 大 田 浩 昭 |
| 最高財務責任者 | |
| 取締役専務執行役員 | 小 池 純 |
| 取締役常務執行役員 | 甲 斐 義 章 |
| 社外取締役 | 佐 藤 潔 |
| 社外取締役 | 岩 崎 清 悟 |
| 社外取締役 | 寺 脇 一 峰 |
| 社外取締役 | 早 川 知 佐 |
| 社外取締役 | 板 垣 絵 里 |
| 取締役（常勤監査等委員） | 高 橋 宏 |
| 社外取締役（監査等委員） | 今 村 昭 文 |
| 社外取締役（監査等委員） | 荻 茂 生 |

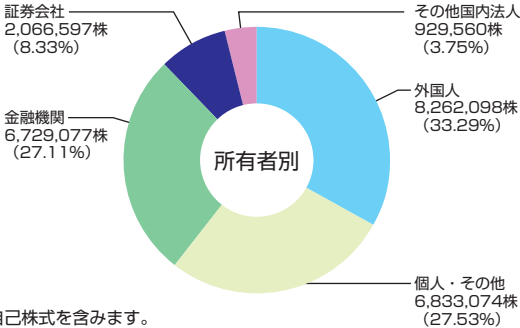
株式の状況

- (1) 発行可能株式総数 72,000,000株
- (2) 発行済株式の総数 24,820,406株
(自己株式1,189,353株を含む)
- (3) 株主数 14,928名
(前期末比6,295名減)
- (4) 大株主（上位10名）

株 主 名	持 株 数	持 株 比 率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	3,813千株	16.14%
株式会社日本カストディ銀行（信託口）	911	3.86
野村證券株式会社自己振替口	703	2.97
株式会社静岡銀行	596	2.52
MLI FOR CLIENT GENERAL OMNI NON COLLATERAL NON TREATY-PB	557	2.36
芝浦機械従業員持株会	546	2.31
芝浦機械取引先持株会	472	2.00
THE NOMURA TRUST AND BANKING CO., LTD. AS THE TRUSTEE OF REPURCHASE AG FUND 2024-09 (LIMITED OT FINANC IN RESALE RSTRCT)	470	1.99
J P モルガン証券株式会社	454	1.92
BNP PARIBAS LONDON BRANCH FOR PRIME BROKERAGE CLEARANCE ACC FOR THIRD PARTY	424	1.80

(注) 1. 当社は、自己株式を1,189,353株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

(5) 株式の分布状況



(注) 自己株式を含みます。

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 6月

基準日 定時株主総会については3月31日
その他必要があるときは、あらかじめ公告
して定める日

期末配当基準日 毎年3月31日

中間配当基準日 毎年9月30日

公告方法 電子公告 <https://www.shibaura-machine.co.jp>
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告を
することができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

郵便物送付先 〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店
及び全国各支店で行っております。

・住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設さ
れました株主様は、特別口座の口座管理機関である
三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

・未払配当金の支払について
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社に
お申出ください。

芝浦機械株式会社ホームページ
<https://www.shibaura-machine.co.jp>



株主の皆様の
声をお聞かせください

コエキク

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、
アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、
アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、
アクセスキー入力後に表示される
アンケートサイトにて
ご回答ください。

<https://koekiku.jp>

アクセスキー

スマートフォンから
カメラ機能で
二次元コードを読み取り



ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝を進呈させていただきます。

本アンケートは、株式会社プロネクサスの提供する「コエキク」サービスにより実施いたします。
アンケートのお問い合わせ「コエキク事務局」 ☒ koekiku@pronexus.co.jp